

バス停「道の駅国見」が誕生

福島交通株式会社は道の駅国見あつかしの郷に路線バスの停留所「道の駅国見」を新設しました。運行初日の6月1日、道の駅への路線バス乗り入れを記念し、現地にて記念セレモニーが行われました。



テープカットの様子



セレモニーでは、太田久雄国見町長が「施設の利便性の向上に期待しています。道の駅のますますの活性化につなげていきます」とあいさつし、続いて茅原稔福島交通株式会社福島支社長が「たくさんの方にご利用いただきたいと思います」とあいさつ。その後、太田町長ら関係者がテープカットを行い、バス停留所の新設を祝いました。

今回、道の駅に乗り入れるのは「藤田線」と「藤田線由小坂線」の2路線。「道の駅国見」の新設に伴い、「藤田線」は「道の駅国見」の発着に、「藤田線由小坂線」は「道の駅国見」、「国見役場」を経由した路線に変更になります。



太田町長（左）と樋口理事長（右）

道の駅のオープンを記念して、福島信用金庫から車いす2台が寄贈され、贈呈式が6月1日に行われました。

贈呈式では、樋口郁雄福島信用金庫理事長から太田久雄国見町長に車いす2台と目録が手渡されました。太田町長は「道の駅ではすべてのお客様に『まごころ』

みんなにやさしい道の駅を目指します

福島信用金庫 道の駅に車いすを寄贈

を込めて対応したいと思っていますので、とてもありがたいです。みなさんに安心して道の駅を利用していただけるよう、有効活用します」と感謝を述べ、樋口理事長は「この道の駅が地域にしっかりと根付き、町の活性化につながっていくことを期待します」とお祝いの言葉を述べました。

地域振興賞を受賞

東北6県の道の駅の事例発表会が5月29日、仙台市の仙台国際センターで開催されました。

事例発表は東北全体の道の駅のレベルアップを目的として、今年で4回目の開催。各県から1駅ずつ事例発表が行われ、福島県からは太田久雄国見町長が「道の駅国見あつかしの郷」の

事例を発表し、地域振興賞を受賞しました。

発表会では、太田町長が「復興のシンボル、防災拠点、交流の場として、国見ならではの魅力を発信していきます」と道の駅国見あつかしの郷の特徴を説明。審査では、多機能で先駆的な道の駅として高い評価を受けました。

道の駅 トピックス Topics



道の駅に木製ベンチを寄贈



町産木材を活用したオリジナルの木製品

道の駅のオープンを記念して、福島県森林組合連合会、福島県北森林組合、農林中央金庫福島支店から町産木材を活用して製作したベンチ7台をはじめ、テーブルと椅子4組、平均台1台、パンフレットスタンド2台が寄贈され、贈呈式が6月6日に行われました。

贈呈式では、松本秀樹福島県森林組合連合会専務理事、渡邊恒雄福島県北森林組合代表理事組合長、船本勝農林中央金庫福島支店長



木のやさしい質感に子どもも大人も安心です

から太田久雄国見町長に目録が手渡されました。太田町長は「利用者に木のぬくもりを感じてもらい、道の駅がくつろぎの場となるよう有効活用します」と感謝を述べました。

寄贈品は道の駅の屋内外に設置され、こども木育広場「つながるくむ」では早速、子どもたちが木製のイスやテーブルを使いながら、おもちゃで楽しく遊ぶ姿が見られました。

祝！来場者30万人達成



30万人目となった菊地さん夫妻（中央）

道の駅国見あつかしの郷がオープンから40日目を迎えた6月11日、来場者30万人を達成し、記念セレモニーが開催されました。

記念すべき30万人目は福島市から来場の菊地勝男さん・直子さん夫妻。太田久雄国見町長から記念品が手渡された二人は「大きな道の駅で前々から行ってみたいと思っていましたが、

いつも人がたくさんで中に入ったのは今日が初めて。まさか自分が30万人目だとは思わず、びっくりしました」と驚きとともに喜びを語りました。

また、29万9999人目の菅野さん家族（福島市）と30万1人目の茅原さん家族（二本松市）にもそれぞれ記念品が手渡されました。



事例発表する太田町長